

令和6年2月3日

令和5年度講演会聴講記

演 題：水質から見た堀川のすがた

鯉城・堀川と生活を考える会

令和6年1月30日、本年度第1回目の講演会（市政トーク）がナディアパーク6階集会室で開催された、参加者数は25人で、狭い室内であるが、当日は、熱気に包まれた。講師は、名古屋市環境局地域環境対策課 野村亜也加技師と名古屋市環境局環境科学調査センター 岡村祐里子研究員の2名で、名古屋市全体の河川の水質について詳しい環境局から専門に研究されている方から伺うと、堀川の水質は、全国の他の河川と比べると、特に汚いのではなく、平均的な地位にある。また経年別の水質の変化については、高度成長期以降、水質は、かなり改善されたが、現在は、緑生土木を中心に、種々の改善をしているものの、水質に関してはほぼ横ばい状況が続いている。



続いて、高度成長期に堀川と同様、どぶ川と呼ばれたが、近年川底が見えるほどに急速に水質改善がされたと言われる大阪の道頓堀川（堀川と同様都心にある運河）が、どのようなことをされてきたかについて、説明を受けた。内容は、堀川と同様に、ヘドロの除去、ゴミの回収に加え、水質の悪い寝屋川からの流入を上流側の水門で閉じ、下流側の水門で海水の流入を閉じたことが影響しているとの事であった。堀川でも、例えば、中川運河において、河口の閘門を極力閉じ、露橋水処理センターからの処理水で運河の水を満たした後、そのきれいな水をポンプで堀川に流せば、道頓堀と同様に堀川も劇的に水質改善が出来るかもしれないのでは？と感じた。

GⅢ 鵜飼